

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3577800422		
法人名	特定非営利活動法人 宅老所 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい室津		
所在地	山口県 下関市豊浦町大字室津下1443-1		
自己評価作成日	平成23年7月14日	評価結果市町受理日	平成23年10月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>明るく家庭的な雰囲気を重視し、利用者が安心感を持って、「日々笑顔をややすことなく」「個性豊かに」生活できるよう努めています。また、個々の心身の状態に合わせた介護内容を日々検討し、快適に生活できるように援助しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調の悪い方以外基本的に毎日夕方に入浴を行っています。</li> <li>・利用者同士、または職員との馴染みの関係を大切にしている。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年8月24日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>代表者は職員育成の重要性を認識され、職員の段階に応じての外部研修への参加の機会の提供や毎月テーマを決めて実施されている法人内研修、月1回の内部研修など働きながら技術や知識が身につくように職員を育てる取り組みをされています。職員と利用者の関係が和やかで、職員一人ひとりが利用者への思いや心の通うケアをされ、気配りや目配りをしながら利用者へ寄り添う支援をされており、利用者が笑顔でゆったりと過ごされている場面が伺えました。かかりつけ医の受診体制や看護師による健康管理、重度化した場合の対応、ターミナルケアへの取り組みなど、本人や家族の思いを大切にされた支援をされており、利用者や家族の安心につながっています。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所前に掲示しており、朝礼等で読み上げ確認し実践に向けて取り組んでいる。	理念と「介護教訓」を事業所内に掲示し、朝礼時に唱和し、確認することで共有をして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事案内をいただき参加している。小学校との交流、事業所主催の夏祭り等の案内を出して、地元の人と交流できるようにしている。	地域の行事(花まつり等)や事業所主催の夏まつり等で地域の人と交流している。地元の小学生(5年生)と父兄が来訪し、ゲームや歌で親交を深めるなど、地域とのかかわりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があればその都度対応している。施設行事には高齢者の為の相談コーナーを設ける等行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に自己評価を行ってもらう事で、どのような取り組みが必要か認識し、職員間で話し合い改善に取り組んでいる。	運営者、管理者、職員は評価の意義について理解しており、全職員で自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価結果について話し合い、急変時の対応について研修をするなど、できることから取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議を開催し利用者の現況、行事及び実施事項の報告、写真で日頃の様子を紹介、行事等に参加していただき意見交換をしてサービスの向上・改善に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の現状報告、行事や活動報告、外部評価結果の報告などを行い、意見交換している。出席者から地域行事の紹介を受けて利用者が参加できるものに参加するなど、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課や地域包括支援センター等に運営相談、入居者に関する相談等適宜行い、質の向上に努めている。	運営推進会議の他、市の支所の職員の来訪や、支所に出向くなどして連絡を取っている。市の介護保険課には入居に関する相談や、サービスについての相談をして助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	パンフレットに身体拘束、高齢者虐待等の排除の理念及び方針を記載している。又ミーティング・職員会議等で話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。日中は施錠せず、外出時には一緒に付き添っている。	マニュアルがあり、勉強会や朝礼時、職員会議等で身体拘束について理解を深め、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠をしていない。利用者の外出に気がついた時は、職員と一緒に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング・職員会議・勉強会を通じて虐待防止について取り組み、職員の意識を高め防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外の研修や社内の勉強会を行い、学ぶ機会を持つ様に努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に十分な説明を行っている。又理解が不十分な時には何度でも説明を行い、納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見・不満・苦情を言いやすい雰囲気作りを行っている。	面会時、運営推進会議時、行事への参加時、電話、メールなどで家族から意見や要望を聞き運営に反映させている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・職員会議などで職員に意見を言ってもらっている。又個別に話を聞く機会を設けている。	職員会議やミーティングの中で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、理事長が個別に職員から意見を聞き、出された意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し、直接的な声掛け・助言等により、向上心を持って働けるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外の勉強会や研修に参加できるように努めている。特に新人職員には、仕事をする中で介護技術や接遇の方法を指導している。(OJT訓練) 又、段階に応じた研修を行っている。	外部研修は、職員の段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。法人内研修を月1回、テーマを決めて実施している。外部研修や法人内研修の受講者は復命報告し、資料の閲覧ができるようにしている。内部研修も月1回行うなど働きながら技術や知識が身につくよう職員を育てる取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協会に参加している。相互訪問等、交流する機会を設けている。又、事業所就職支援事業を通じて、同業者と交流・研修会を開催している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメントを行い、不安な事、求めている事等をよく聴く機会を作り、解消できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にアセスメントを行い、困っている事、不安な事をよく聴く機会を設け努力している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは見守りしながら一緒に行う。喜びや楽しみを共に共有し、支え合う関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族の意見や要望を聞く機会を持ち、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも面会に来やすいように心がけている。又、希望時には(近場の場合)馴染みの方に合いに行ったり、馴染みの場所に行くなどの支援を行える体制をとっている。	馴染みの店での買い物や美容院の利用、自宅に帰ったり、遠方への旅行など家族の協力を得て支援している。利用者の友達、知人、近所の人などの来訪があるなど、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が上手く関わりあえるよう、食事時、入浴時、レクリエーション時などを通じて、お互いの相性、関係を把握したうえでよい関係が保て、支え合えるように心がけている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても相談に応じられる体制をとっており、希望があれば各種行事のお知らせを送るなど、交流の場を設けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や家族との情報などから、思いや意向を把握するように努め、職員会議やケアカンファレンスで本人本位に検討している。	日々の関わりの中での利用者の会話や様子を介護記録に記録し、思いや意向を把握するように努めている。困難な場合は家族からの情報や職員会議で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントや家族からの情報を元に、職員全員が経過の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や本人の言動・日々の介護記録を元に、朝礼や会議等で現状を総合的に把握するように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの情報や本人の言動、仕草などから知り得た情報を元にカンファレンスを開き、介護計画を作成している。	職員全員で月1回ケアカンファレンスを開催し、利用者の状態、医師からの情報、面会時等での家族からの意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。モニタリングを行い、3ヶ月、6ヶ月毎に見直しをする他、変化に応じて、現状に即した見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やバイタルチェック表など個別に記入し、職員全員で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて柔軟な支援をしている。家族が泊まる時には食事を用意することも可能。自宅で用事がある時は送り迎えの援助も可能。(近場のみ)		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察に情報を提供し理解を求めたり、避難訓練を通じて消防の方にも協力をお願いしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や急変時にも受診や往診もでき、適切な医療が受けられるように支援している。希望のかかりつけ医への通院支援も行っている。	協力医療機関をかかりつけ医としており、4週間に1度の受診や2週間に1度の往診を支援している。歯科については、希望者があれば協力医の往診があり、他の専門医の受診についても、可能なかぎり職員が同行支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤職員に看護師を配置し、利用者の日常の健康状態を維持できる様になっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を密に行い、本人が安心して過ごせるよう連携している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所後早い段階から家族の意向を聴き、ターミナルケアも受け入れている。職員会議等で全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた指針があり、入居後、家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から看取りについて関係者で話し合い、方針を共有し、本人や家族の希望に沿って、事業所のできる取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	勉強会などや日々の介護の中で学び、事故防止や急変時、事故発生時に対応できるように取り組んでいる。	ヒヤリはっと、事故報告書に記録し、対応策をその場で話し合う他、職員会議で検討し一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。急変時や事故発生時に備えて研修を行っているが、全職員対象の応急手当や初期対応の定期的な訓練までには至っていない。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルが作成してあり、訓練も定期的実施している。運営推進会議等を通じて地域の方との協力体制を築いている。避難訓練時に避難場所の確認等を行っている。	マニュアルがあり、年2回夜間想定も含めた避難訓練を実施している。消火器の使い方や避難経路の確認をしている。運営推進会議で地域への働きかけをし、避難訓練に地域の人も参加するなど災害時の協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを工夫し対応している。入浴時やトイレ時など必ずドアを閉め、他者から見えないようにしたりタオルを掛けることで肌を露出しすぎないように配慮している。	マニュアルがあり、法人内の勉強会で学び一人ひとりの言葉かけに注意して、誇りやプライバシーを損ねないように取り組んでいる。気になる言葉かけや対応には、職員会議で話し合ったり、職員同士で注意しあっている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できる様な声掛けの工夫をしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その人らしく過ごせるよう支援している。入浴・食事・就寝・起床等、一日の流れはあるが、日々の本人の体調・気分によりその人のペースを大切にし、その人らしく過ごせるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度訪問美容がある。(毛染めも可能)希望があれば、希望の店に行くことも可能。(近場のみ)		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に簡単な調理や盛り付け、配膳、後片付けを行っている。	普段は配食サービスを利用しているが、月2回、昼食を手作りしている。利用者は、買い物、調理、盛り付け、片付けなどできることを職員と一緒にし、職員は利用者の食事が楽しみなものになるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量を記入し、一人ひとりに合った食事、形態の工夫をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、自分ではできない利用者に対しては職員が義歯のケア、夜間には洗浄剤につけ置きしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、気持ちよく排泄できるように声掛けや誘導などを行っている。	利用者の排泄パターンを把握して、一人ひとりに合わせた声かけや誘導でトイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、全職員が状況を把握している。お茶ゼリーなどを作り、こまめに水分補給を行うようにしている。又、体操・散歩など利用者に合った運動を取り入れて、便秘の予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日夕方からの入浴を基本としている。本人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。又体調に合わせ、シャワー浴や清拭を行っている。	入浴は毎日14時から17時まで可能であり、希望者は夕食後にも入浴できるように、利用者の希望や状態、タイミングに合わせて、ゆっくり入浴を楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息したり、眠れるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表を作成し、薬の目的や副作用、用法や用量について理解できるようにしている。必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味など得意分野を把握し、陶芸や散歩など楽しく過ごしていただけ様に支援している。	オルガン、歌、ラジオ体操、読書、陶芸、習字、貼り絵、雑巾縫い、カルタ、お手玉、畑づくり、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみなど楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いを持って過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出は自由にできる。希望があれば個別の外出に付き添う等、支援している。	散歩やスーパーなどでの買い物、イベント見学、初詣、外食、季節の花見(桜、菖蒲、あじさい、コスモス等)、ドライブ、(みかん狩り、近隣の海岸)など、戸外に出かけられるように支援している。家族との自由な外出をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方はいないが、希望や状況に応じ対応している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけたり手紙を出す支援をしている。手紙を出す時、利用者の言葉を下書きし、それをご本人に書いてもらうなどの支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所・リビング・廊下まで見渡せるようになっており、共用の空間は季節に合わせた貼り絵などを作成し、心地よく過ごせるように工夫している。	明るく広々とした共用空間には季節感のある貼り絵や手作りの作品が飾っており、室内の温度や音、換気に配慮している。ガラス張りの事務室やオープンキッチンからは、リビングや廊下が見渡せ、職員は調理や事務仕事をしながら利用者の様子を見守り、支援がすぐできるようにしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを2台向きを変えて設置し、思い思いに過ごせるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を持ちこめるようになってきている。	使い慣れたダンスや家族の写真、絵画、本、カレンダーなどを持ち込み、利用者が安心して過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できるように手すりを設置している。利用者の身体に合わせポータブルを居室内に設置するなど工夫している。又、自尊心を傷つけないように声かけし、一人ひとりの力を活かして自立して生活していけるように工夫している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームあじさい室津

作成日: 平成 23年 10月 13日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員対象にした、応急手当や初期対応の定期的な訓練を実施する。	全職員が急変や事故発生時に自信をもって対応出来る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間で計画をたてて実施する。</li> <li>・実技を取り入れ、全職員が体験しながら覚えていく。</li> <li>・消防署の救命講習も取り組んでいく。</li> </ul>	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。